

2021年10月31日（日）

宣教 『心を新たに』

テキスト：マルコによる福音書7章1～13節

本日10月31日は、最近の日本ではハロウィンが有名になってきましたが、私たちプロテスタント教会に属する者たちにとっては宗教改革記念日にあたる日であります。今から500年ほど前、1517年10月31日にマルチン・ルターがドイツのヴィッテンベルグ城教会の扉に95箇条の提題、問題提起をはりつけ、当時のカトリック教会の免罪符販売に反対したことから始まった宗教改革運動です。この宗教改革運動はその後、ドイツやスイスを始め全世界に広がり、今日のプロテスタント教会を生み出して行きました。ドイツではルターが、スイスではカルヴァンがあらわれ、しばらく後にイギリスではメソジスト教会の創始者ジョン・ウェスレーが登場します。そして洲本教会の信仰のルーツはこのジョン・ウェスレーの信仰にそのルーツがあると思えます。彼は、世界は我が教区であるとの思いで、地域の隅々まで馬に乗って伝道したと言われます。特に信徒の方々を伝道者として用いて行ったようです。信徒覚醒運動と呼ばれています。

ルターから始まる宗教改革で大切にされた考えは、人が神によって救われるのは、良い行いを積んだからではなく、ただイエス・キリストを信じるという、信仰によってのみであるという点にありました。信仰義認と言われます。これは新約聖書にある使徒パウロの教えと同じです。

宗教改革運動では、聖書が一番大切なものとされました。ルターは、聖書を当時のドイツ語に訳して民衆が読めるようにしました。宗教改革者たちは信仰の基礎を聖書において、運動を進めていったのです。

ルターは彼が書いた数々の文書と、信仰理解のために時の国会で厳しい追及、審問の場に立たされます。

その時、「我、ここに立つ」と叫んだと伝えられています。それは、聖書に立つ、御言葉に立つ・福音に立つということなのです。「恩寵（神の恵み）のみ、信仰のみ、聖書のみ」この三つが宗教改革の重要なことであったのです。

宗教改革記念日を覚えるということは、わたしたちの信仰、教会の原点を確認し、教会もそこに立ち歩み続けることでもあるのです。

ところで、今日の聖書の個所の主イエスの言葉にも宗教改革の原理につながる言葉があります。9節です。「9:更に、イエスは言われた。「あなたたちは自分の言い伝えを大事にして、よくも神の掟をないがしろにしたものである。」です。

さて、今日の聖書の個所は、イエスのなされた病人の癒しと、神の愛の働きが、広まり、約2000年前のユダヤの中心都市であったエルサレムの町にまで伝わり、時のエルサレムの町に住むユダヤ教の指導者たちに伝わって行った状況の中で起こりました。

◆昔の人の言い伝え

1:ファリサイ派の人々と数人の律法学者たちが、エルサレムから来て、イエスのもとに集まった。

ファリサイ派の人々は民衆の宗教生活の指導者でした。民衆に近い立場でユダヤ各地に民の宗教的な指導者としていました。歴史的な経緯はあるのですが、生活における「清め」を大切に考える人たちでした。

エルサレムの律法学者たちは、当時のユダヤ教の体制を支配していたリーダーです。宗教的祭儀や規則を重んじる人々で、現状を維持することを重んじていたようです。昔からの掟や規則を大切にする律法学者たちがイエスの活動を見るため、調査するためと言った方が適切かもしれません。エルサレム神殿のあるユダヤの中心都市エルサレムからガリラヤ地方までやって来たのです。

ついにその時が来たという感じです。これから先、律法学者たちと神の子イエスとの論争が始まって行くのです。

イエスの戦いは十字架に至るまで、ユダヤ教の既存の権力を持っているこの人たちファリサイ派である律法学者たちとの戦いであったと言えるのです。

律法学者たちのイエスへの非難、いいがかりは、宗教的な「清め」に関することでした。彼らは清浄不浄に宗教的に拘るのです。イエスの弟子たちの中に汚れた手、つまり洗わない手で食事をする者がいるのを聞き、見たのです。これは、律法学者、ファリサイ派の人々からみれば行ってはならないゆるせないことでした。

当時のファリサイ派の人々の生活スタイルが記されています。

3:——ファリサイ派の人々をはじめユダヤ人は皆、昔の人の言い伝えを固く守って、念入りに手を洗ってからでないと食事をせず、

4:また、市場から帰ったときには、身を清めてからでないと食事をしない。そのほか、杯、鉢、銅の器や寝台を洗うことなど、昔から受け継いで固く守っていることがたくさんある。——

ファリサイ派の人々は、自ら汚れることを拒むのです。自分たちだけではなく、民衆にそのことを強要するのです。それが当時のしきたりだったのです。

「念入りに手を洗ってからでないと食事をせず、」というのは、今日、衛生的に感染病予防として良いことではあるとは思いますが、問題はそのことを宗教的に必要なことであると決めていたことにあると思えます。食事の前に決められ

ていることを行わないと神の前に汚れた者とみなされたのです。

「杯、鉢、銅の器とは、具体的にどのようなものであったか、大きさなどは、今日厳密には分からないようですが、食事に用いられた器のようです。

これには、それなりの理由はあったとはいえ、こういうことを指導者から時に監視され厳格に守らねばならない民衆たちはさぞ窮屈な生活だったのではないかと思います。

そこに神の子イエスが現れたのです。天と地の創り主、愛なる神さまが派遣されたのです。

宗教的指導者たちはイエスを訴えます。イエスと律法学者たちの論争に入ります。

5:そこで、ファリサイ派の人々と律法学者たちが尋ねた。「なぜ、あなたの弟子たちは昔の人の言い伝えに従って歩まず、汚れた手で食事をするのですか。」と。

ユダヤ教の指導者たちは、神の言葉、神の掟を第一とするいいながら、実は、自分たちが受け継いで来た、決め事を第一としてそれを人々に要求していたのです。

この点に対してイエスは、一切妥協せず毅然と戦われたのです。イエスは、指導者たちに語ります。

6:イエスは言われた。「イザヤは、あなたたちのような偽善者のことを見事に預言したものだ。彼はこう書いている。『この民は口先ではわたしを敬うが、／その心はわたしから遠く離れている。

7:人間の戒めを教えとしておしえ、／むなしくわたしをあがめている。』

8:あなたたちは神の掟を捨てて、人間の言い伝えを固く守っている。」

紀元前8世紀に生きた預言者イザヤの言葉を用いて、

イエスは、ファイリサ派や律法学者を、偽善者といいます。

「偽善者」という言葉は、ギリシア語では「俳優」を意味する言葉です。

つまり演技をしているということです。

その口は神を敬うことばを教え語るが、その心が神から離れていると。

イエスは見せかけを非難しているのです。

ここでのイエスのファリサイ派の人々と数人の律法学者たちへの言葉は、イエスの憤りであり嘆きのように思えます。

イエスは自分の命をかけた改革ののろしを挙げられたかに思えます。

そして、

9:更に、イエスは言われた。「あなたたちは自分の言い伝えを大事にして、よくも神の掟をないがしろにしたものである。

当時のユダヤ教の指導者の大半が、「自分の言い伝えを大事にしている」人間がつくったもの、受け継いだものなどなど。

しかしそのことによって、神の掟をないがしろにしていると言われるのです。続けて、

彼らの生活におけるその一例として言われました。

10:モーセは、『父と母を敬え』と言い、『父または母をののしる者は死刑に処せられるべきである』とも言っている。これは、旧約聖書の出エジプト記20章12節（p126）、レビ記20章9節（p194）に記された神の教えです。

11:それなのに、あなたたちは言っている。『もし、だれかが父または母に対して、「あなたに差し上げるべきものは、何でもコルバン、つまり神への供え物です」と言えば、

コルバンとは、神への捧げものの意味で、人への贈り物には使用されないと言われます。たとえば親が子に、子の持ち物を「これこれのために使わせてくれないか」と頼んだとき、それを断わる理由としても使用されることがあったようです。これは、人間の都合で神のことば、ひいては神さまを利用することです。

当時「コルバン」とさえ言えば、コルバンの誓のために、子どもの扶養を受けられなく両親もいたそうです。

13:こうして、あなたたちは、受け継いだ言い伝えで神の言葉を無にしている。また、これと同じようなことをたくさん行っている。」

自分たちの体制、力を保つために、宗教を利用すること、神の名を利用することは世界中、人種を超えて行われて来たし今でもありえることです。神の掟を第一とすることは、人間の作ったものを第一としない、絶対視しないということです。反対にみせかけではなく、心を新たに本当に大切なもの、良いものを受け継いで行くことの大切さを思わされます。

主イエスは毅然としてユダヤ教指導者の見せかけの姿を暴かれたのです。ここからイエスは、神の道、真理に生きるために、指導者たちから遂に命を狙われる道を歩み出されたのです。

今日は宗教改革記念日です

500年前、ルター当時のカトリック教会を財政的に支える当時の教会指導者たちが作った免罪符制度ではなく、神の恵み、神のことば、信仰による改革のろしをあげたのだと思えます。ルターの主張は当時のカトリック教会からは異端扱をされます。今ではプロテスタント教会とカトリック教会の交流や宗派を超えての交流もなされています。

神さまがルターを用いて灯された、信仰の火は神の憐み、主イエスの愛、聖書のことば、愛の十字架を土台として、今も燃え続けているのです。誰もイエスと神さまへの信仰の火を消すことはできないのです。

わたしたちも教会生活を送る中で、繰り返し信仰の原点に立って歩みたいと願います。イエスの名によって神を求め祈る者たちがいる限り、神さまは時に応じて必ず必要な道を示してくださるのです。そのことを信じます。主にある希望はあるのです。

◆昔の人の言い伝え

- 1:ファリサイ派の人々と数人の律法学者たちが、エルサレムから来て、イエスのもとに集まった。
- 2:そして、イエスの弟子たちの中に汚れた手、つまり洗わない手で食事をする者がいるのを見た。
- 3:——ファリサイ派の人々をはじめユダヤ人は皆、昔の人の言い伝えを固く守って、念入りに手を洗ってからでないと食事をせず、
- 4:また、市場から帰ったときには、身を清めてからでないと食事をしない。そのほか、杯、鉢、銅の器や寝台を洗うことなど、昔から受け継いで固く守っていることがたくさんある。——
- 5:そこで、ファリサイ派の人々と律法学者たちが尋ねた。「なぜ、あなたの弟子たちは昔の人の言い伝えに従って歩まず、汚れた手で食事をするのですか。」
- 6:イエスは言われた。「イザヤは、あなたたちのような偽善者のことを見事に預言したものだ。彼はこう書いている。『この民は口先ではわたしを敬うが、／その心はわたしから遠く離れている。』
- 7:人間の戒めを教えとしておしえ、／むなしくわたしをあがめている。』
- 8:あなたたちは神の掟を捨てて、人間の言い伝えを固く守っている。」
- 9:更に、イエスは言われた。「あなたたちは自分の言い伝えを大事にして、よくも神の掟をないがしろにしたものである。」
- 10:モーセは、『父と母を敬え』と言い、『父または母をののしる者は死刑に処せられるべきである』とも言っている。
- 11:それなのに、あなたたちは言っている。『もし、だれかが父または母に対して、「あなたに差し上げるべきものは、何でもコルバン、つまり神への供え物です」と言えば、
- 12:その人はもはや父または母に対して何もしないで済むのだ』と。
- 13:こうして、あなたたちは、受け継いだ言い伝えで神の言葉を無にしている。また、これと同じようなことをたくさん行っている。」